

第2回 国際協力プロフェッショナル検定 + 検定試験対策Webコース 合格者の声

①森山 和義 様 (30代、鉦研工業株式会社)

Q.本検定試験を受験されたきっかけをおしえてください。

現在、井戸・水道設備工事などの政府開発援助（ODA）事業を実施する、民間企業で働いています。実際に開発途上国の現地に出張し、水資源分野のODA案件に、エンジニアとして携わっています。すでに、ODA事業の現場経験はありますが、目の前の業務ばかりに集中すると、盲目的になってしまい、なかなか大きな視点で物事を捉えることができなくなります。申込み前に、本検定試験のオンライン説明会に参加した際に、本検定試験の勉強を通じて、国際協力やODA事業について、基礎的知識を得られると聞き、一度、**国際協力やODA事業について、大局的な観点から勉強し直してみるのも良いと思いました。自分自身のリスキングの良い機会だと思い、本検定試験の受験を決めました。**

本検定試験を知ったきっかけは、会社で購読している『国際開発ジャーナル』に掲載されていた広告でした。また、所属する会社からも、本検定試験の受験を薦められました。

Q.どのように試験対策をされましたか？

試験対策Webコースの中で紹介されていた、サンプル学習方法にならい、事前学習動画を見た後、演習問題を何度か繰り返し解きました。それから、試験対策Webコースの最後の一週間の間に、模擬試験にも取り組みました。**試験対策Webコースで提供されていた内容に繰り返し取り組んだ後、本番検定試験に挑みました。**

森山 和義 様
(30代、
鉦研工業株式会社)



Q.本検定試験の難易度はいかがでしたか？また今後どのような方にお勧めしたいですか？

すでにODA事業に従事していることもあり、難易度は、難しすぎず、簡単すぎることもなく、丁度良いレベルでした。

本検定試験は、国際協力やODA事業の全体像を短期間で学習できるので、今後、社内の新入社員や若手社員の、新人教育や知識強化のために活用したいと思いました。これから、会社が持続可能な開発目標（SDGs）に貢献するビジネスを海外に展開していくにあたり、本検定試験で扱っているような、**国際協力、ODA、SDGsに関する俯瞰的な視点や全体像を、知識として身に付けておくことは非常に重要だと思います。**そのため、若手社員にも本検定試験の受験をお勧めしたいです。



新井 彩雅 様 (20代、大学生)

Q. 本検定試験を受験されたきっかけをおしえてください。

将来、**自分が研究職に就くか、NGOや開発コンサルタント会社で働くかに悩んでいます**。そんな中、JICA PARTNERで本検定試験の案内をみて**面白そうな検定だなと思い、説明会に申し込みました**。説明会は洗練されていて素敵な印象を受けました。大学では国際政治学を専攻しており、なにか学習してきたことを形に残せるのも良いなと思い、また**履歴書にも国際協力プロフェッショナル検定を保有している**と書けると**カッコいい**なと思い、受験を決めました。一度検定試験に合格したら更新の必要がなく、また合格者特典としてインターンに応募できる点も魅力的でした。

Q. 検定試験で印象に残っている内容があればおしえてください。また、どのように試験対策をしましたか？

国際協力NGOの具体的な活動など、これまで知らなかった知識を得られたのはよかったです。よく勉強すれば合格できるが、浅い知識では合格できないなと思いました。試験対策は、ちゃんと準備をして本格的に学ばないと受からないなと思ったので、**ひたすら問題を解きました**。解説の「さらに学びたい人向けの参考資料」のURLの情報を読んだり、高校時代の政治経済の資料を読み、学習しました。

Q. 本検定試験を通じて学んだ内容を、今後どのように活用される予定ですか？

大学院への進学を考えており、**アピールポイントとして使いたい**です。国際協力分野の知識を、教養としても身につけられたと思うので、将来仕事をするうえでも活用していきたいと思っています。

Q.本検定試験を受験されたきっかけをおしえてください。

現在大学の3回生です。将来は国際協力業界で働きたいと思い、キャリア設計を考えているところです。国際協力業界はファーストキャリアを築きづらいと感じており、何かアドバンテージになり活用できるものがないかWebで検索していたところ、PADECO Academyのポータルサイトを見つけました。また、国連フォーラムのメールや『国際開発ジャーナル』でも案内を見たことがあったので、説明会に参加して受験を決めました。

Q.国際協カプロフェッショナル検定+検定試験対策Webコースのなかで、印象に残っている内容があればおしえてください。

印象に残っている学習内容は、**Week1の事前学習動画の「国際協カプロフェッショナルの事例紹介」**です。キャリアの積み上げが参考になり、もう一度見返したいぐらい貴重でした。

検定試験では、**ODAの実績などの経済分野の知識**が印象に残りました。日本はODAの実績が多い方だと思っていたので、米国の次だと思っていましたが、ドイツに次ぎ第3位だという点が衝撃的でした。

Q.どのように試験対策をされましたか？

試験対策Webコースの**演習問題を中心に勉強**しました。解説と参考資料をOneNoteに整理して、繰り返し解きました。模擬問題は、本番検定試験の1~2日前に、**3回繰り返**しました。



高橋 幸太朗 様
(20代、大学生)

Q. 本検定試験を通じて学んだ内容を、今後どのように活用される予定ですか？

現在、国際協力のプログラムのある大学院に進学を考えています。**インターンや、大学院出願時に国際協カプロフェッショナル検定合格をアピール**に使いたいと思っています。



R. T 様
(30代、会社員)

Q.本検定試験を受験されたきっかけをおしえてください。

大学では観光分野を専攻しました。大学卒業後、観光関連の民間企業に就職しましたが、グローバルな仕事に関心があり、JICA青年海外協力隊に応募しました。JICA海外協力隊では環境教育隊員として観光地のごみ問題に対し3Rの活動を行い、帰国後は観光のコンサルタント企業に勤務しています。今後、国際観光分野の新しい案件を応札する可能性があり、私自身も**国際協力に関する基礎知識を強化したい**と思い、**本検定試験を受験しました。**

以前から、パデコのLinkedInアカウントをフォローしていました。ある日、パデコのLinkedInに「国際協力プロフェッショナル検定」に関するお知らせが投稿されたのをきっかけに、本検定試験に興味を持ちました。申込み前にオンライン説明会に参加し、検定試験の内容を詳しく聞いたところ、学習範囲がいま自分が必要としている内容だと分かりました。さらに、「国際協力プロフェッショナル検定」では、**国際協力やODA事業の全体像を、網羅的に学べる点がとても魅力的だと感じた**ので、受験を決めました。

Q.お仕事をされながら試験対策をするのは大変でしたか？また印象に残っている内容があればおしえてください。

仕事と並行した学習スタイルだったため、試験対策の時間をとるのが大変でした。そのため、試験対策Webコースの開講期間の最後の一週間に集中して、演習問題と模擬試験に繰り返し取り組みました。

印象に残っている学習内容は政府開発援助（ODA）の仕組みです。JICA青年海外協力隊の派遣前訓練でも、類似の内容は勉強しましたが、今回新しく学ぶ事項も含まれていました。また、**ODAの最新情報を学べたところが良かった**と思います。

Q.どのように試験対策をされましたか？

演習問題や模擬試験は設問ごとに詳しい解説があるだけでなく、**出題のねらいや参考資料のWebサイトが掲載されていたので、試験勉強をする際に役に立ちました。**試験対策Webコースの演習問題を**何度か繰り返すだけでなく、参考文献として紹介されていた書籍も買って、模擬試験を解いて分からなかったところについて、重点的に理解を深めました。**

Q. 本検定試験を通じて学んだ内容を、今後どのように活用される予定ですか？

今回、本検定試験を通じた学習は国際関係・国際協力分野での基礎知識として必要な内容でした。具体的には、**国際協力やODA事業に関する背景的知識を得ることができた**と感じています。国際協力を取り巻く環境は刻一刻と変化しているため、今後も継続的に最新情報をチェックしたり、自己学習を進めたりしていきたいと思っています。

Q.本検定試験を受験されたきっかけをおしえてください。

現在、大学院の博士課程に在学中で、将来は国際協力業界、特に開発コンサルタントへの就職を希望しています。国際協力業界への就職に向けて、**国際協力や政府開発援助（ODA）の全般的な知識を身に付けたい**と思っていた時に、国際開発学会のメーリングリストで、本検定試験の案内を見つけ、興味を持ちました。また、合格者特典としてインターンに応募ができる点もとても魅力的でした。開発コンサルタント会社への就職はハードルが高いと感じていますが、本検定試験への受験を通じて、**就職活動の第一歩を踏み出すことができた**と思います。

Q.試験対策Webコースの中で、印象に残っている内容は？

開発コンサルタントが現場経験を話す動画が、とても印象に残っています。開発コンサルタントの具体的な業務内容について、公開されている情報が少なく、なかなか情報収集が簡単ではないと感じています。そんな中、性別、年代、分野の異なる何名かの開発コンサルタントから、実際の仕事内容や現場経験についてお話を聴くことができ、とても良かったです。動画を見てから、**開発コンサルタントの仕事について、具体的なイメージが湧くようになり、より身近に感じられるようになり**ました。

S. T 様 (30代、大学院生)

Q.どのように試験対策学習を進めましたか？

まず紹介されていた参考図書を読み、そのあと試験対策Webコースに取り組みました。**演習問題の解説と参考文献を、Wordに貼り付け、印刷して読み込みました。**演習問題は、2-3回繰り返し解きました。**演習問題を何度も解き、解説と参考資料も読み込んだ**ため、模擬試験に取り組むまでに、しっかりと試験範囲の内容を把握することができました。

Q.本検定試験でどのような内容が学びになりましたか？

試験範囲の8つのテーマの中で、特に「**国際協力の歴史**」のテーマが**勉強になりました。**すでに知っている内容もありましたが、断片的にしか知らなかったり、最後に勉強してから時間が経過したりしていたので、本検定試験の勉強を通じて、国際協力に関する歴史的な出来事や潮流を、**時系列に整理して理解することができました。**